おのげまつり
面白おや
耶郎
上

特別
へ13
3533
1

序

夫腦卿の街に有る美妓貪婪の別なく。嘗て侍果報を
見ざるを恨み盧生が夢を信じ昇趙作雄が美人と
結ぶ。偏に好なるの佳筆に此竟界なる風流地
我よりそ不人なく。及ばぬ望みを苦し。寝ぬあしく
暮さんを生涯の損といふべし。されども斯てうたゝ
しきわりの嘉物の美風が美物語繼ぎて出ずるく。
世の多佐報れ美ぎ。添乳性の種ともなるの爾也

文政十三年
寅乃卯月日

案山子

世中屋夢助
了鬢
玉三
おろげ

引舟
福山
つちや
神宮
歩出の槌屋
小宮太夫

揚屋の樓上より御拂の降図

御茶屋樓耶鄭上之巻

浪花　表野黒人戯編

一冊　蘇蘇庵蓮

神風や伊勢路へ急ぐ緒図の道者。曳やくとそ
駄や。彼の街の扁辺小住。世中屋貧助といふ男なり
隣家の猪兵衛の手伝に往く縄のゆく草鞋宿をへ
かへすく拵ゑ付茶後も志ゝ〻瞞ゝるに捎なりて門の方
小騒しく人吉ゆるに驚く何事にやと起きいるに
怪らふ平家まへあらで五造二軒茶屋なり。門の今るハ

門 へ13
號 3533
巻 1

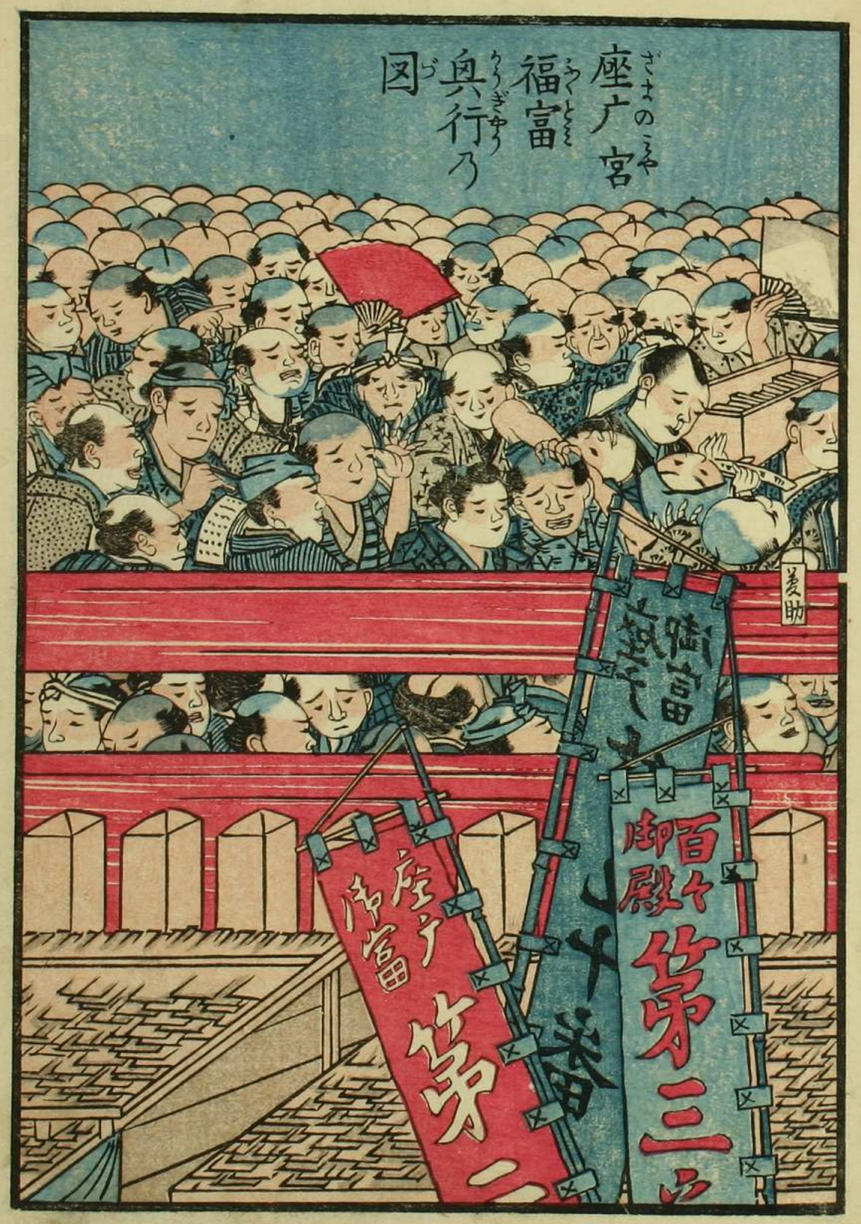
御藤糸宮の道者なるべ。各〳〵國郡と笠に書懸よ記く
思ひ〳〵の伴達と連て。道中節唱ひをも面白く行
抜て。爰即巴紋と凋果。我いの間よりけれへ来るかハ
知ざれど。比振ひと見さく乗り糸宮せざ行べき宿へ向
く賓之紙賀に拵きてなりとも。笠と拵て賓祝へ幾
糸せんのと其後郭第屋と売買家屋とさ〳〵て
久み戻るに。何ゝ命〳〵中より衿元へ數通の有。何ふかな
先〳〵見きバ。先級先稜なり。然ハ祭御交の有にこそと
仏蝶〳〵。見紙宙〳〵て道と急ぐに。そゝび物よ躍き

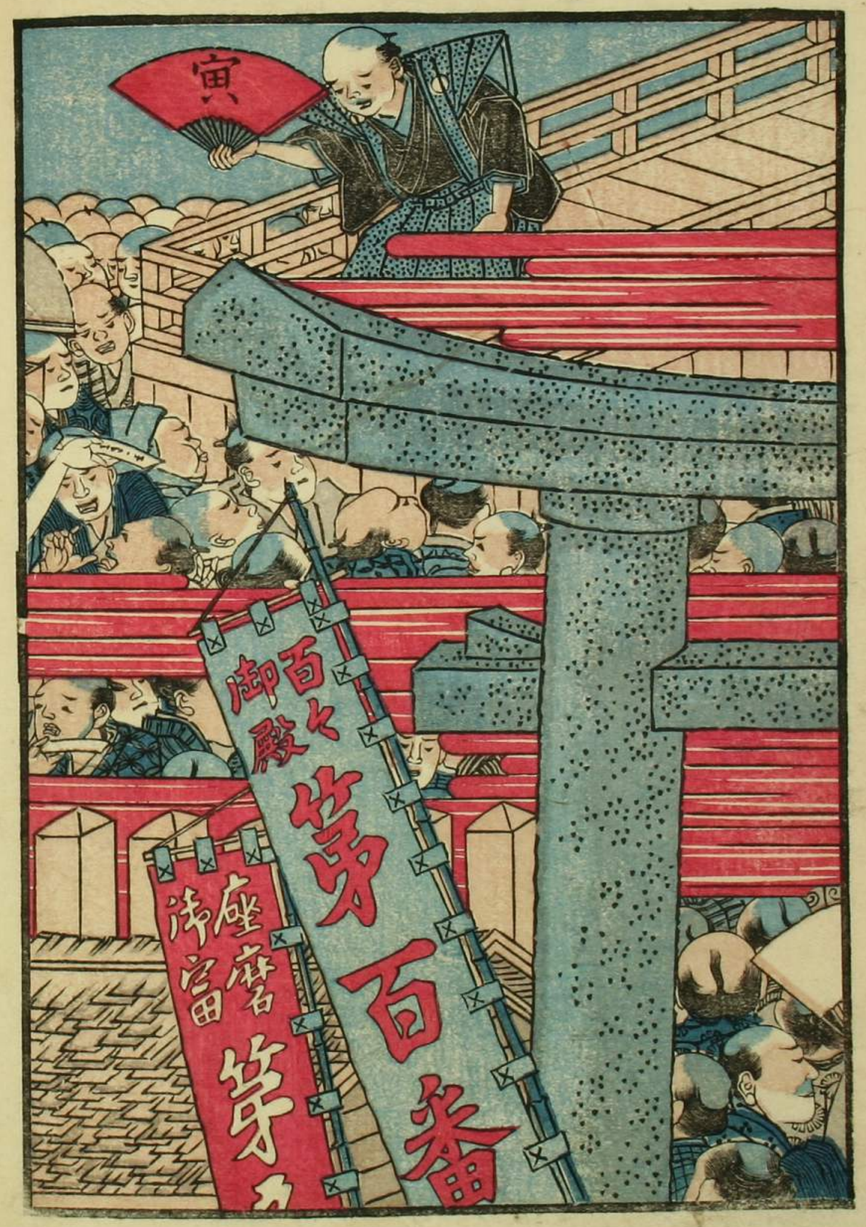
ものてん鞄と打振き。ぼ〳〵の孫娘を走〳〵ろ打。這〳〵和紙
上置く縁とさゝもろなぐら傍紙見るに。躍〳〵ハ元にいなで
紙小包〳〵四角なる拵なり張く元上開き見るに。是
えか〳〵ん彩箭の南蛮十六匹なり。爰即大いふ驚紀又
悦び。見も大神宮の路銀よせよとて与へ〳〵るゝ。アラ有
難やと東に向ひく押戴きけ〳〵懐中〳〵。富〳〵と戻る
路程麻宮を通るに。只今富の宮中と見へ人群集騒
〳〵富の札賣者〳〵にサア三百両ハどふぢやな。ぬれぐ二条
ふまろ〳〵と買なんせんろなトさも勢ひく賣紙見く爰即

文謡本
二
七
八

新年
舞
御
神楽
夢助
二軒茶や
御藍
糸
の
人を

むかしやひとるゝ。我〻ごとく際ぐ糸宮の踏根さを為八幡の
有。よゝや丸れさを投罰こく。運の有ろ者ろ祈拭さたやと心を
定め。先寅のゝ〻ちれで干支八宮と定め。外宮内宮を卯
千ゝ〻。百卯十未社ホ明和八年より今ゝ〻迄六十年を
六十ゝ〻。合廿こく宮の卯子百八十といふれやなるとヨるに。
幸ひ狩染の丸屋に其れ有ゝれた。扨こく卯年扱出こく
丸れさを投罰。仁嘩と呑ぐ今やゆるると凡る内に限と
突こく九十九番目ホいゝれど中らぬ。菊安三南一指よふ
〻かとなさこなくゝふれ。富方第百番目の富祈実ほ
げ祈用きて第百番の御富寅の卯子百八十番目ト
読上ゝる。爰助ひゝるゝて接のぬゝる社屋餅つき。余り
の暁〻さに内ごろ開く杵もはよゝぬ。よゝれ屋ヤ
扶起されぬ付く海恵はぬ。其日いゝ祈歩く心地〻
く宿へ帰王。翌三日夜の明る祈結ゝ元付ホ明ほ猿第
嬉ゝ去〻て卯百卯十八南三歩三朱二百卅三文。よもは
さぬホゝ〻まゝで〻ゝ〻ゝて鳴ホて阿波の糸宮人
の味なゝ〻ゝ住祈皆に阿波に今年八御蔭さるぬやけホ。扨ゝぬ
村方へ麦ヨ穂ヨ穂ゝ穂ゝ候。盆八六十年以来の上作ぬやけホ


座广宮
福富
奥行乃
図
差助
御高田
百々
御殿
第三
十番
座广
福富
第二


寅
百々
御殿
第百番
座広
福富
第九

田作も豊年じゃあらふ下いふて過る。貧助ガ出世の時来至るにや。其日の大引
組。一文なりの孔へ幸為拾ひ。銭米一ツて銭百三十文斗の
大金銭儲しる。大神宮の内陰といふるぐら。我運の
開く時ハ即玉来なるべし。今の道者の帰りてハ
米ハ傷ハ下落なるなり。続く運ハ天より牡丹
餅ハ棚ヲ切りとなり。てんぷらの皮ヲ」金銭なれのもの
一ハ傷張て又だやと。まるも欲面なるの日の長き横
場ヲへなり。雲為へ行て兼て参るの大黒屋摂津ヲ
いの相談方へいなり。先金百文銭を附よ三千石賣に
ゆくるに。貧助ガ出世の時来至るにや。其日の大引
まで小拾文方下まて三十メ目の沼分付なり。貧助貧
の乞地つ。ためらの兎の耳でハなるく。益ル銭長り延し
雲為小遅為し。野も お傷と張るに。毎日の賣に毎日
下至。十日も立ざる内にまた方巴入子貫目ともひ。大黒
屋の世話まて雲為辺小家銭買求め。金為へ為ひ迎る為
名数ちゃ。代入七人下女まちなひ丁稚迎銭拵へ。お傷
先門の両替の様の内紀るとと買る。俄小西屋屋の上
那殿と。形銭四ともまる角奥為時銭ヱへこの候ぐらひも

宮
新町九軒丁の図

夢

又るゞ又まゝの豪家付合。諸義屋義へも金をとれ。お
協ハ已ゞ乗と揮。ゑ代とゆめく賣買さるゝ賣を備
買ばとゝ日〳〵のゐる糸毋を目といふ言をきゝ
色皆大神宮板の御蔭なりとて。施行宿報紛
来に人宗百人絆うみく世給さゼゑ代福ふ
祈代糸〳〵て糸宮さゼ。糸宮の御師金鄂和久
太夫に付く千両のをく神乗と上さゼゝ。されど
も貧恥を妻なれど。由緒正しき豪家より妻と
迎人とゝふ門。金沢の家益の振舞に付始く新

町九郎の栗屋といふ揚屋へいゝる。付合ふよりて新
町のうちでの揚屋の花へ小宝を夫といふ花魁と喰る
に。ゼを夫新ハ玉の如く。紀ハ白銀と水晶と組合せ〳〵より
羅〳〵。むふお〳〵鍵の紀ハ白銀と陽望のゝくれな紀傘
どゝ赤ふて。賢ハ寶の簪祈なゝべ髪に丁子の匂い芳ら〳〵
べつゝ。鼈甲の櫛并。ゆゝゝとゝふ祖白き糸指浴指ハふも貧と
捌拙様のうんぎ〳〵。紀金のきせ〳〵。細工よ絶
ゼ。衣裳ハ白賞紗来ゝもなん庫織阿蒙陀物。誠よ身の廻
又紀又るでかゝでもゼを南や糸南の亜おハきゝとゝゝ。ゼゝも

夢助
九斬の
揚屋
游楽の図

蓼蕭廊藏

ふくりつ
情の素ぐものこころばせ　かくる老翁もの一段笑べきこと火盃も
しはめ　ふくびふ　ふかめ　おくびかれ　ふくれ　ふぐ
汐の間に。二段笑べ鬼色も延と流とぐかうの美人るれ。美
恥大いに心に叶ひ。色よう夜も色ひどく。金銀と
湯ものとつくみく男所みぐ紀紀文硯休ぐ大色所拵く
九平河ち郎の酒落と鄙く。稼くの拵び小心と色くる
ぐ。天晴ち美小手美文さ世。絵人の眼玉をひいろう逸さんと云へど。
弱句中く人ぬに沒だされぬ。大神文人教延く。垢離のあ毎郭
郭風呂と撲せく湯となびくるに。武時丁推丁子古美恥に
むろひ。耶り代垢離いくまちよう　　耶郭上之巻終